

旧ふるさと銀河線の歴史を学び、沿線のまちを巡る3日間の「ふるさと銀河線沿線応援ツアー」が11日、北見市で

始まった。初日は道内外から参加した約30人がセミナーやSL見学を楽しみ、思い出に浸った。(畑野 落)

旧ふるさと銀河線沿線でツアー

鉄道たどりの 地域をPR

市民団体「ふるさと銀河線沿線応援ネットワーク(小川清人代表)」が主催。鉄道を地域の観光開発につなげるのが狙いで、地元住民以外にも首都圏から三人、北見市以外の道内から四人が参加した。市内中ノ島のきたみらい農協会議室で開いたセミナーでは、ネットワークの熊谷祐三さんが国鉄時代の網走線から始まる銀河線廃止までの歴史を、北海道新聞北見支社報道部の熊井君子記者が廃止鉄道の連載で取材した際の思い出を語った。

その後、南仲町の三治公園に保存されているD50型機関車などを見学。さらに、常盤町の個人所有の除雪車や郵便車両などを見学した。元JRの機関士で市内在住の長谷川忠義さん(セウ)が「雪が積もると脱線して大変だった」などと当時の苦労話を交えながら解説した。

横浜在住でネットワーク会員の浜田勉さん(ヘミ)は「北海道も鉄道も好きで参加しました」。夫婦で参加した市内の山宮喬也さん(セキ)は「こんなに多くの方がふるさと銀河線

道内外30人 SL見学やセミナー

を大事に思っていると知ってうれしい」と話した。

十二日は訓子府で朝市を見学し、森林鉄道跡を歩

き、陸別へ。十三日は銀河線を動態保存した「りくくべつ鉄道」で乗車・運転を体験する。



三治公園で保存されているSLを見学する参加者